

7月11日(日)は参議院選挙

争点は与党の過半数？消費増税？雇用対策？

7月11日(日)は、参議院選挙がおこなわれる。

昨秋の衆議院選挙の争点は、「政権交代」だった。その結果自民党公明党の連立政権から、民主党を中心にした連立政権に交代した。

では今回の参議院選挙の争点は何だろうか？与党の過半数確保なのか？消費増税なのか？雇用対策なのか？いまひとつはつきりしない気はする。

しかし、各党の主張は、マスコミなどをとおして報道されているし、一昨年のリーマンショック後の景気や雇用の低迷、貧困の拡大など緊急の課題を解決していくために、選挙をとおして国政に声を届けていくことはたいせつだ。

各党の政策をよく吟味して、住民登録がある人は投票にしよう。投票の通知はがきがなくとも、投票所で、氏名と住所を言えば投票できるし、西成区に住んでいる人は西成区、他区の人には自分の住民登録がある区役所で、10日(土)まで「期日前投票」ができる。

持っている権利は、行使することがたいせつだ。

《期日前投票》 7月10日(土) まで。

住民登録のある区役所で、あさ8時30分～よる8時。

《投票日》 7月11日(日) あさ7時～よる8時

萩之茶屋1丁目、2丁目に住民登録のある人 → 萩之茶屋小学校

萩之茶屋3丁目に住民登録がある人 → 今宮小学校

《参議院大阪選挙区・定数3人》 立候補者名

民主党＝岡部まり、尾立源幸。 自民党＝北川イッセイ。 公明党＝石川博崇

共産党＝清水忠史。 新党改革＝山分ネルソン祥興。 社民党＝大川朗子。

みんなの党＝川平泰三。 諸派＝浜野夕希子、深田敏子。

《投票用紙の書き方》

選挙区は、立候補者の氏名を書く。比例区は、立候補者名でも政党名でもOK。

とくそうちょうさ ほうこく 2010年1月特掃調査の報告2

ちょうさ とくそう いぎ ろうどうしゃ おお 2007年調査よりも特掃の意義は、労働者にとって大きくなっている

特別清掃事業の意義	2009年度調査	度数	割合	2007年度調査	度数	割合	増減
収入を得られる	664	84.8%	収入を得ることができる	1054	75.3%	9.5%	
就労意欲を継続できる	310	39.6%	就労意欲を継続できる	402	28.7%	10.9%	
社会に貢献／参加しているという意識がもてる	229	29.2%	社会参加感覚を持てる	244	17.4%	11.8%	
仲間と一緒に働くことができる	296	37.8%	仲間と一緒に働ける	375	26.8%	11.0%	
技能を習得できる	33	4.2%	基本的な技能の習得	92	6.6%	-2.4%	
健康を維持できる	359	45.8%	健康維持	375	26.8%	19.0%	
その他	12	1.5%	その他	20	1.4%	0.1%	
とくにない	7	0.9%	別に役立っていない	19	1.4%	-0.5%	
有効回答数	783	100.0%		1399	100.0%	0.0%	
不明・無回答	38	4.6%					
回答総数	821	100.0%					

前号で報告した今年1月の特掃就労者調査だが、今回は「はたらく人にとっての特掃の意味」についてみてみる。

前号でもみたように、調査した1月には、09年度の登録者のうち3分の1ほどの人は生活保護になって特掃から卒業していた。特掃にのこった人のうち約9割は「すぐには生活保護をうけるつもりはない」とこたえ、その半分は理由として「はたらいたい収入で暮らしたいから」とこたえていた。

それと関係していると思うが、今回の調査では、特掃で「就労意欲を継続できる」人が約4割と07年にくらべて1割増え、「社会に参加している」という意識がもてる「仲間と一緒に働くことができる」もそれぞれ1割以上増えている。「健康を維持できる」とこたえた人は、全体の46%で、前回よりも2割も増えている。

特掃の回数が、07年度では月平均3.5回だったのが、5.3回へと増えたのがおおきく影響していると思うのだが、これは、仕事につける回数が増えるほど、はたらくことの価値もまた、本人にとって大きくなっていくことを示しているのではないだろうか。

大阪府や大阪市には、こうしたはたらくことの価値を高めて自立の意欲をつよめていることができる特掃の意味をしっかりと認識してもらい、はたらくことでシエルターや野宿からぬけ出すことができる「しごと・すまい・医療の総合対策」をつくり、その柱としての特掃事業をかくじつにつづけていってもらいたいと思う。

そのためにも、70歳手前より上の人は特掃以外の対策、特掃はせめて50歳以上であれば登録できるようにしていく必要がある。